平成 31 年 2月 10日

研修報告書

氏名：坪内　万祐子

所属：京都市立病院

研修期間：平成　30年　4月　　日　～　平成　31年　3月　　日

研修場所：京都大学遺伝カウンセリング集中コース

受講動機：

産婦人科領域では出生前診断のみならず、婦人科癌も遺伝的背景を加味して治療にあたるべき時代となり、臨床と遺伝学はますます切り離せないものになりつつあります。

貴重な学びの場として、本年度も在籍させていただきました。

研修内容：

遺伝カンファレンスレクチャーへの参加

研修成果：

出席回数は限られましたが、活発な討議内容を興味深く拝聴しました。遺伝カウンセラーを目指しておられる大学院の方の中には助産師資格を持つ方もおられ、助産師の視点からの意見も新鮮でした。

そして、講師の先生のお話は教科書では得られない現場の様子が肌で感じられ、衝撃を受けるとともに自らの責務を改めて感じました。特に印象に残っているのは、染色体異常をもって産まれた子たちの外来フォローや在宅ケアに携わっておられる先生のお話です。在宅ケアを成功させるには、地域の協力や病院のバックアップ体制強化はもちろんのこと、家族の主体性が不可欠であること、しかしそれは俄かには形成しがたく、大変な苦労をされているとのことでした。妊娠中からの愛着形成がうまくいくように、我々としても配慮していく必要性を痛感しました。

その他（感想・要望・反省点、等）：

貴重な機会を与えて頂きましてありがとうございました。

今年から当院でも遺伝診療部が発足し、京都大学遺伝子診療部の連携施設として、遺伝カウンセラーの方にお越しいただき、診療が開始される運びとなりました。

これまでの学びを生かし、今後も御指南頂きつつ、地域の需要に対しての役割を果たしていきたいと思います。